

<乳児期の子どもたちの園生活は、安心・ゆったり・満足>

0・1・2歳児の縦割れクラスでは、保育者との信頼関係を土台に、特に運動の発達、言語の発達、意志や感覚の発達を重要点とし、それらの発達の課題を獲得できるよう環境を準備し、自由教育を実施しています。子ども達は、それぞれの担当保育士や看護師が温かく見守る中で、好きな場所を選び、本を読んでもらったり、歌をうたったり、お気に入りの教具や玩具で遊んだり、必要なときに必要なだけ抱っこやおんぶをしてもらっています。保育士の豊富な声かけのもと、ゆっくり過ぎてゆく時間の中で子ども達は満足そうに安心して過ごす保障がされています。それにより今の時期に大切な基本的信頼関係を築きながら過ごしています。

職員は研修を通し子どもの発達について十分理解することが出来たようで、発達の段階に合った環境構成をスムーズに行うことが出来るようになりました。それにより子ども達はその整えられた環境に関わり合いながら無理なく成長発達していくことができていると感じました。

3・4・5歳児のクラスでは、モンテッソーリ教具や補助教材、音楽や美術の環境を思う存分自由に使いそれぞれが選んだ好きな活動をしています。特にアートコーナーでの製作のは、さまざまな廃材を利用し、操作が難しい玄能や釘などの道具も作って自由に表現しています。

身体能力の低下が問題になっている現代社会ですが、一日60～120分の中強度の運動を可能にするよう配慮しています。そのため、身体能力の発達が著しく見られます。

保育士は、日々子どもたちのやりたい気持ちを大切に、個々の興味関心を出発点とし環境を整えて対応しています。子どもは大人に教えられて育つのではなく、自分の興味に向い能動的に活動しているため、自由の保障の中で自主性・創造性を育てています。

<広い園庭では、興味のあることを通じて、健やかな心と体を育む>

全クラスが同時に遊ぶことができる広い園庭で、子ども達は自由に活動を選び思いっきり遊んでいます。乳児用と幼児用それぞれの発達段階のあった遊具をその段階のクラスが扱いやすい位置に配置し、運動器官を沢山使い様々な多様な活動を通し、動きそのものの獲得だけでなく、運動を調整しながら環境に交わっていきます。そのような活動から、心も体も健やかに育ち、自立と自律を獲得していきます。

一年を通して田畑での作業は、全ての子どもが主人公です。畑では土を作ることから、種まき、肥料、水やり、草抜き、収穫。田では水入れ、代かき、田植え、中干し、草抜き、

稲刈り、脱穀、もみすり、精米と自分の身体を使って体験し、自然の原理を感じます。自分自身も自然のなかのひとつであると感じとってゆき、自分以外のものに対し、思いやりが育ちます。

<食育目標である「楽しく食べる子」を目指す>

園では、「好き嫌いをなく食べよう」と指導するのではなく、畑や田んぼの活動を含め本物に触れながら作物の成長に関わることで自然に楽しく食に対して興味関心が湧くことを目標に環境づくりをしています。年々野菜嫌いが減少しています。

クッキングにも力を入れています。毎日様々なものを作っています。1～2歳児はクッキーやポップコーン、3歳児以上はピザやお好み焼き、梅干、干し柿、干し芋など。

平成29年度は特に食育に繋がる活動を絵本を通じて行う機会を多く取り入れることが出来ました。

<職員間で話し合う機会を連携を実現>

当園では、園長と主任を中心に、日々のミーティングや月の会議を大切にしています。園長・主任・栄養士・調理師・各乳児クラス担任・幼児クラス代表担任が参加する会議では、園児の当園状況から日々の出来事、保育士からの病状報告、栄養士からの給食に関する情報の情報共有が行われます。また、月1回行っている、法人内の全職員が参加する職員会議では、定例事項の他にも日常保育に関する意見交換も行われ、偏りの無い情報から最善の方法を選択し保育に活かすことが出来ます。

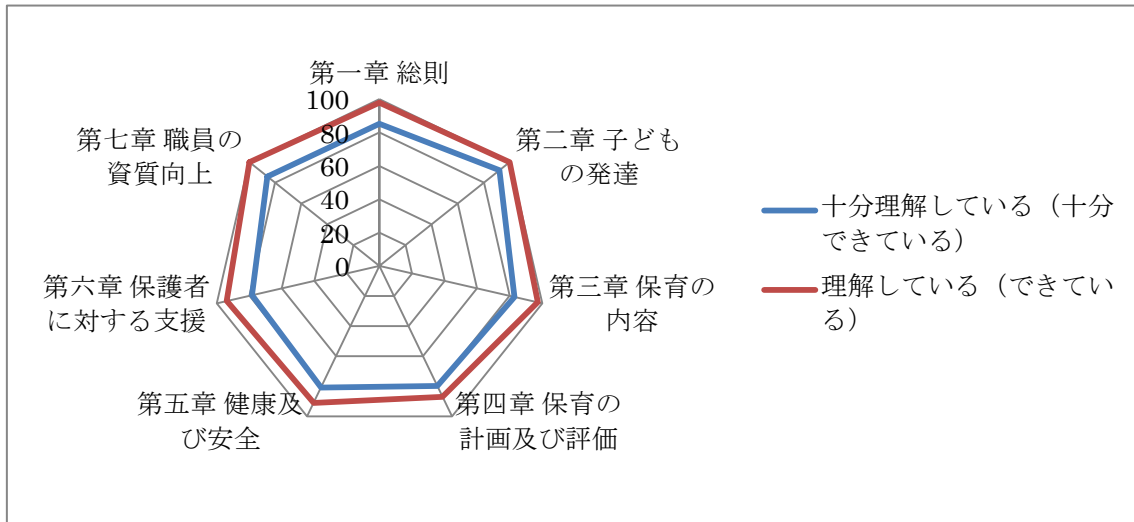
様々な園の出来事を全職員の知識を出し合って問題解決をしたり、法人内の全体を知ることにより、日常保育における職員間のスムーズな連携が実現されます。

<充実した職員研修と人材育成>

法人では、各職員に役割を明確に与え、それぞれに「求められる職務」を明文化しています。職員個々の要望を聞きながら、丁寧な研修計画を策定しています。また、園長は年1回全職員との個人面談を実施し、その際に個人の目標・自己評価・振り返り・次年度に向けての日常保育の疑問や課題点などを話し合います。保育サービスの向上と職員のスキルアップを目指して充実した研修と人材育成制度となっています。管理者と職員間の信頼関係を築くことができ、退職者が減少しています。

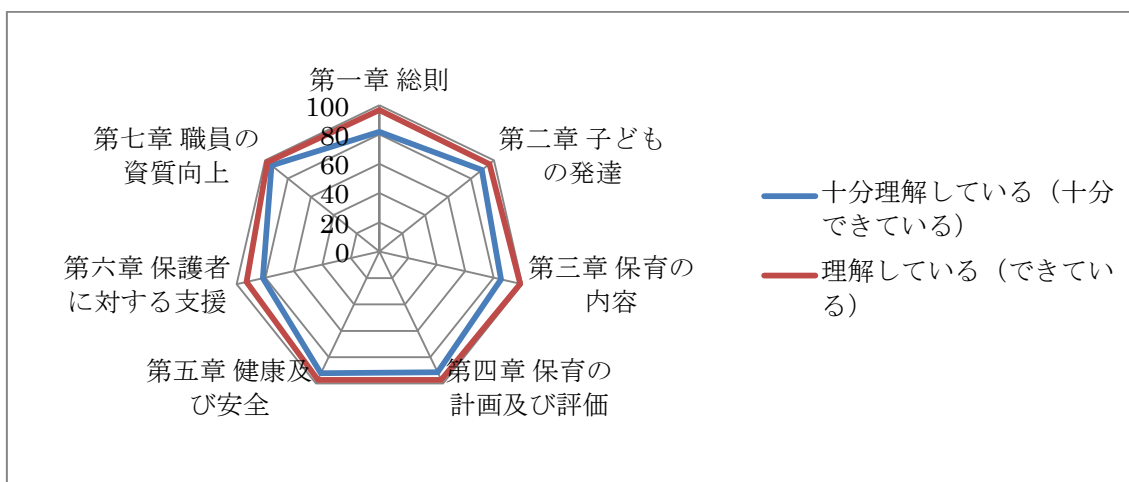
<職員個人・クラス・園全体の自己評価>

・ちゃいるどほうす保育園



前年度と比較してみると保護者支援は大きく上回ったが、引き続き研修で強化していく。総則の理解は昨年に引き続き少々低めであるため早期に研修項目に組み入れ理解度を高めよう準備を始めた。次年度も総則と保護者に対する支援項目の理解を高められるよう励みたい。

・ちゃいるどはうす森のほいくえん



職員は、保育の根幹である保育課程を振り返り日常の保育日誌や月間指導計画と照らし合わせて、反省点をあげ、次年度に活かしています。あがった課題は、職員会議などで話し合い、課題点や問題点を、個人としての課題にとどまることなく、園全体の問題として捉え、今後の取り組みに活かしています。

グラフを比較してみると、年々理解度が増していることが見て取れる。

平成29年度の自己評価については平成27年度を大きく上回る理解度になっており、昨年と比べても上昇している。全ての項目において80%を超える理解度になっている事を見ると研修等の結果が出ていると考えられる。

今後の目標としては、昨年同様その中で最も理解度の低い、保護者に対する支援が、いかに大切な項目であるか理解が深められるよう研修を組み立て、個々の保護者の支援が出来るよう具体的な対応の強化をしていく。新保育指針に対応していきながら総則についての理解度も高めていく。